

第1号議案

令和5年度 事業報告

1. 通常総会

第64回通常総会は、令和5年5月26日（金）アルカディア市ヶ谷において開催した。出席者は委任状とも1,368名で、定款第17条に規定する定足数に達した。

定款第15条の定めにより、本総会の議長は会長がこれにあたるとしており、阿波野会長を議長とし、議事の審議にあたった。

(1) 議 事

議事録署名人については、定款第19条により、議長および議長が指名する出席者2名以上としており、出席正会員の中から下村 匠氏および三島康造氏の2名が指名され、令和4年度事業報告、同収支決算報告、役員改選はいずれも原案どおり承認議決された。

また、令和5年度事業計画、同収支予算についての報告があり、いずれも了承された。

(2) 名誉会員推挙

和泉公比古殿、佐藤卓夫殿、浜原正行殿、平岡慎雄殿が名誉会員に推挙された。

(3) プレストレストコンクリート工学会賞授与

令和4年度（第50回）授賞は、論文賞2件、作品賞7件、施工技術賞1件の計10件である。

○ 論文賞

- 加熱改質フライアッシュを用いたPC構造物の
高耐久化に関する研究
(会誌第64巻6号)
北野 勇 一 殿
水戸 健 介 殿
秋吉 善 忠 殿
伊藤 始 殿
- 脱塩後19年経過したPC T桁のかぶり部分の化学分析
(第31回プレストレストコンクリートの発展に
関するシンポジウム論文集)
中村 文 香 殿
正木 守 殿
七澤 章 殿
宮里 心 一 殿

○ 作品賞

(土木部門)

- 吉野川サンライズ大橋
西日本高速道路(株) 四国支社 殿
- 岩城橋
愛媛県 殿

- 西九州新幹線 第2本明川橋りょう
 (独)鉄道建設・運輸施設整備支援機構 九州新幹線建設局 殿
 八千代エンジニアリング(株) 殿
 鉄建・九鉄・堀内特定建設工事共同企業体 殿

(建築部門)

- 川口市立高等学校
 川口市 殿
 (株)久米設計 殿
 川口土木建築工業(株) 殿
 (株)ピーエス三菱 殿
- 豊洲MiChiの駅
 清水建設(株) 殿

(改築・改修部門)

- 蓼野第二橋（下り線）床版取替
 西日本高速道路(株) 殿
 三井住友建設(株) 殿
 (株)日本ピーエス 殿
- つめた谷橋（下り線）の拡幅
 西日本高速道路(株) 殿
 (株)ピーエス三菱 殿

- 技術開発賞
 応募なし

- 施工技術賞
 ● 国道3号千歳橋補修工事 (株)富士ピー・エス 殿

以上の賞について、工学会賞選考委員会井上 晋委員長より選考結果が報告された。阿波野会長より、論文賞、作品賞、施工技術賞受賞者に賞状と副賞として記念盾がそれぞれ授与された。

2. 理 事 会

通常理事会を10回（8月，2月を除く毎月），臨時理事会を1回（5月）開催した。
 議事録要旨は会誌の工学会記事欄に記載しており，省略する。

3. 会誌等の発行

会誌は隔月に6回計20,800部を発行した。

4. 委員会

【常設委員会】

(1) 総務委員会

総務委員会をオンライン併用会議にて7回（4月，6月，7月，10月，12月，1月，3月）開催した。4月は令和4年度事業報告案ならびに同収支決算案を審議した。6月は役員の職務分担，7月は組織図，各委員会規程および各委員会名簿の確認を行った。10月は上期収支決算およびホームページリニューアルWG会活動報告，12月は役員候補者，名誉会員候補者検討，ホームページリニューアルWG会活動報告，1月は役員候補者，名誉会員候補者，fib コンgress 2030準備委員会設立の審議を行い，3月は役員人事，名誉会員推挙，令和6年度事業計画案，同収支予算案および受託研究委員会設立を審議した。

(2) プレストレストコンクリート工学会賞選考委員会

第51回（令和5年度）プレストレストコンクリート工学会賞選考のため，2回の委員会を開催した。令和6年3月28日（木）開催の第2回目の委員会の討議を経て，論文賞2件，作品賞6件（土木部門2件，建築部門2件，改築・改修部門2件），技術開発賞2件，施工技術賞1件を受賞候補に選出し，これを4月度理事会に答申した。

(3) 会誌編集委員会

委員会を11回（8月を除く毎月）本工学会会議室（オンライン併用）にて開催した。会誌「プレストレストコンクリート」を年度6回発行した。第65巻4号，6号，第66巻2号は特集号とし，それぞれ「建築特集」，「道路橋の拡幅」，「港湾・海洋構造物」を企画特集した。

(4) ナショナルレポート編集委員会

令和4年度に日本コンクリート工学会（J C I）と共同制作し，ホームページ上に公開した「National Report of Japan on Structural Concrete -The 6th International fib Congress 2022」を更新し，fib のナショナルレポートウェブページからも閲覧できるようにした。

(5) シンポジウム実行委員会

委員会を6回，総務・広報・学術・現地WGを合計12回開催し，福島県郡山市のビッグパレットふくしま（福島県産業交流館）で開催する第32回シンポジウムの企画と運営を行った。また，令和7年の第34回シンポジウムの開催を福井県福井市で行うことを決定した。令和6年1月からは，新潟県新潟市の朱鷺メッセ（新潟コンベンションセンター）で開催する第33回シンポジウムの準備に取りかかった。

(6) P Cアーカイブス委員会

委員会を1回，幹事会を2回，収集整理・原稿企画・システム検討WGおよび合同WGを合計9回開催した。幹事会では，今後の活動方針，各WGの活動計画について議論を行い，活動実施に向けた体制を構築してきた。システム検討WGは，ホームページ「アーカイブ

ス」に、アーカイブ的資料閲覧、キーワード検索機能を追加し、会員ページに「PCアーカイブス会員特典コーナー」を新設、さらに閲覧者からアーカイブ的情報提供を受信できるシステムに改修した。収集整理WGは、新たに情報収集するPC構造物、技術情報48項目を選定し、情報収集を行った。収集した情報はカルテに登録するとともに、ホームページで閲覧できるようシステム検討WGへ引継いだ。原稿企画WGは、令和6年度PC技術講習会の講演題目、テキスト原稿の目次構成および執筆担当について検討した。また、名誉会員へのインタビュー企画を進め、寄稿文依頼やインタビュー実施計画を検討するとともに、未発表の黎明期PC構造物の会誌投稿を行った。

(7) PC技術規準委員会

委員会を2回、幹事会を4回開催し、講習会開催方法の検討、新たな小委員会の立ち上げなどについて検討を行った。PC橋プレキャスト工法技術規準作成小委員会が策定した規準の意見照会と審査を行った。

1) PC橋プレキャスト工法技術規準作成小委員会

委員会を1回、幹事会を1回開催した。「プレキャストPC橋技術規準」を発刊し、発刊に伴う講習会を令和5年10月2日（月）に東京にてハイブリッド開催し、令和6年3月にオンライン講習会を開催し、委員会を終了した。

2) PC構造物の3次元解析による部材設計ガイドライン作成小委員会

委員会を5回、幹事会を1回開催し、PC構造物の3次元解析事例の情報共有とガイドライン構成案について検討した。

3) PC技術を用いた構造物の低炭素社会への貢献に関する検討小委員会

委員会を4回開催し、低炭素社会へ貢献するPC技術事例の情報共有とプレストレストコンクリートサステナビリティ宣言に対する検討を議論した。

(8) PC鋼材委員会

委員会を1回開催し、構造物の高耐久化により持続可能社会に貢献する「超高耐久橋梁の開発と実用化」について紹介と討議を行った。また、PC構造物の長寿命化や現場施工の省力化に寄与することを目的に開発された高機能PC鋼材や緊張機器について、評価試験や適用状況に関する5件の報告があった。さらに、PC鋼材の海外規準に関して *fib Commission-5*での活動内容が紹介された。

(9) 公募研究委員会

令和5年度より、新規の研究課題ならびに研究委員会の公募を随時行うこととし、会誌およびホームページに公表して募集した。令和5年度は2件の応募があり、それぞれメール審議にて採用可否を議決した。

(10) P C技術講習会委員会

委員会を2回開催した。令和5年6月に開催した第50回P C技術講習会（オンライン形式）の受講者アンケート結果を踏まえて審議を行い、次回第51回P C技術講習会のプログラムを決定した。全国3地域の有識者による特別講演とテキスト講演題目6題を設定した。

(11) P C技士委員会

委員会を1回、各小委員会を6回開催した。受験者および再登録者を対象にオンライン（オンデマンド動画配信）によるP C技士講習を実施した。令和5年10月15日（日）に東京、大阪、福岡の3会場において一斉に第31回プレストレストコンクリート技士試験を実施し、12月5日に合否の判定を行った。

(12) コンクリート構造診断士委員会

委員会を1回、各小委員会を11回開催した。受験者および更新登録者を対象にeラーニングによるコンクリート構造診断技術講習を実施した。令和5年7月9日（日）に東京、大阪、福岡の3会場において一斉に第16回コンクリート構造診断士試験を実施し、10月11日に合否の判定を行った。

(13) 国際委員会

「P C工学会の国際化を進めるための企画・提言を行うこと、ならびに日本のP C技術を海外へ情報発信すること」を目的に、令和5年度は、委員会を5回開催し、以下の活動を行った。

- ① *fib* の総会、Technical Council, Presidium に参加した。
- ② *fib* の各種委員会（Commission ならびにそれらの下の Task Group）に参加した。
- ③ *fib* コンgress 2030 in Japan の開催について検討を行った。
- ④ P C工学会英文ホームページの更新を行った。
- ⑤ P Cシンポジウムの海外からの特別講演の企画、運営を行った。
- ⑥ P C技術講習会の国際関係のテキスト執筆と講演を行った。
- ⑦ ベトナム I T S Tとの合同ワークショップを行った。。

【公募研究委員会】

(1) 浜松町駅旅客ホーム上家調査委員会

本委員会は、令和3年度より活動開始し、令和5年度が活動の最終年度となる。委員会を1回、幹事会を1回開催し、報告書および委員会成果の公表方法を議論した。委員会成果の公表は、令和7年度のP C技術講習会とP Cシンポジウムのワークショップにて講演することを検討し、委員会を終了した。

(2) 洋上風力発電に用いるプレストレストコンクリート製浮体の実施検討委員会

本委員会は、令和5年3月に国土交通省より公表された「コンクリート製浮体式洋上風力発電施設的设计施工ガイドライン」に基づき、実際にコンクリート製浮体を実現するため

の製造システムや製品供給体制などの技術的課題を検討することを目的として、令和5年度より活動を開始した。委員会を1回開催し、洋上風力発電に用いるプレストレストコンクリート製浮体の実施事例や研究報告を情報共有し、勉強会や見学会実施について議論した。

(3) 「歴史的にみたプレストレストコンクリート建築と技術」続編 編集委員会

本委員会は、2002年に発刊した「歴史的にみたプレストレストコンクリート建築と技術」の続編の発刊を目的として、令和5年度より活動を開始し、2000年以降の代表的なP C建築物や技術の変遷を検討した。

【受託研究委員会】

(1) 既設ポストテンション橋の再生・補修・補強検討委員会

本委員会は、令和元年度より活動を開始し、令和5年度は、委員会を1回開催した。令和4年1月に発刊した「既設P Cポストテンション橋保全技術指針」の概要版を英文化し、委員会を終了した。

5. 講習会等事業

(1) 第50回P C技術講習会

第50回P C技術講習会を令和5年6月5日（月）から6月26日（月）の22日間にわたりオンライン（オンデマンド動画配信）で開催した。受講者は2,913名で、726名からWebアンケートの回答を得た。

(2) プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム

令和5年10月26日（木）・27日（金）の2日間にわたり、福島県郡山市のビッグパレットふくしまにおいて、「第32回プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム」を開催した。日本大学工学部准教授の知野泰明氏、ノルウェー公道管理局のDr. Arianna Minoretti氏による特別講演と、147題の論文、報告の発表が行われ、優秀講演賞18名を表彰した。また、37団体による技術展示の実施、ワークショップでは基調講演、スペシャル対談および委員会報告が行われた。参加者は648名で、法人正会員、賛助会員のほか、関係諸団体を合わせて51団体から後援があった。

(3) 「プレキャストP C橋技術規準」の発刊に伴う講習会

令和5年10月に策定した標記規準の発刊に伴う講習会を令和5年10月2日（月）に東京にて開催し、ライブ配信した。また、当日講習会を聴講できなかった方に受講してもらうべく令和6年3月4日（月）から3月22日（金）までの期間、オンライン（オンデマンド動画配信）で開催した。参加申込者は合計119名であった。

6. 資格認定事業

(1) プレストレストコンクリート技士制度

1) プレストレストコンクリート技士試験講習会

令和5年度のプレストレストコンクリート技士試験講習会を、令和5年9月4日（月）から9月19日（火）の期間、オンライン（オンデマンド動画配信）で開催し、再登録研修を令和5年9月4日（月）にオンライン（録画ライブ配信）で開催した。受講者は計149名であった。

2) プレストレストコンクリート技士試験

令和5年度のプレストレストコンクリート技士試験を、令和5年10月15日（日）に東京、大阪、福岡の3会場において一斉に実施した。

受験申込者は318名で、試験の合格者は90名であり、会誌第66巻1号およびホームページに掲載発表した。

3) プレストレストコンクリート技士登録

令和5年度標記試験合格者の登録者は89名で、登録更新者は774名（更新対象者は1,001名）であった。また、再登録者が67名あり、令和5年度のプレストレストコンクリート技士登録者は、合計930名となった。その結果、令和5年度末の有資格者（登録者）は4,723名である。

(2) コンクリート構造診断士制度

1) コンクリート構造診断技術講習

令和5年度のコンクリート構造診断士試験に先立ち、任意受講のコンクリート構造診断技術講習（eラーニング）を、令和5年3月1日（水）から7月7日（金）の期間、実施した。受講申込者は、124名で、受講修了者は96名であった。

2) コンクリート構造診断士試験

令和5年度のコンクリート構造診断士試験を、令和5年7月9日（日）に東京、大阪、福岡の3会場において一斉に実施した。

受験申込者は186名で、試験の合格者は41名であり、会誌65巻6号およびホームページに掲載発表した。

3) コンクリート構造診断士登録

令和5年度標記試験合格者の登録者は、41名で、登録更新者は308名（更新対象者は352名）であった。また、再登録者が6名あり、令和5年度のコンクリート構造診断士登録者は、合計355名となった。その結果、令和5年度末の有資格者（登録者）は1,384名である。

○事業報告に係る附属明細書について

令和5年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、作成しない。

令和6年4月

公益社団法人 プレストレストコンクリート工学会